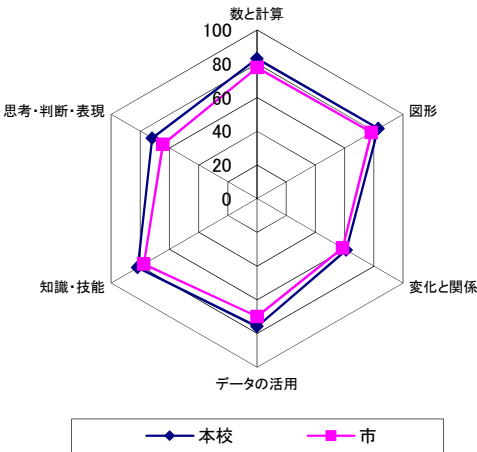


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.0	77.7	78.6
	図形	83.0	78.4	74.4
	変化と関係	61.1	58.7	53.0
	データの活用	75.9	69.9	57.2
観点別	知識・技能	81.7	77.5	74.0
	思考・判断・表現	71.7	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本領域の平均正答率は83%で、市の正答率を5.3ポイント上回った。 ○「真分数÷真分数(約分2回)の計算ができる」の平均正答率は、92.7%で、市の平均正答率を4ポイント上回った。 ○「小数の乗法の文章問題を表した図の構造をとらえている」の平均正答率は92.7%で、市の平均を8.9ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数の計算では、基本となる正確な計算力は身に付いているが、図を見て分数倍の文章問題を解くために必要な乗法・除法の立式を考える力が不足している。計算問題だけでなく、文章題を解く場面を設定し、応用力の定着を図る。 ・文字を使った問題場面をイメージできるように、自分の考えを図式化する力を高めていく。
図形	○本領域の平均正答率は83%で、市の正答率を4.6ポイント上回った。 ○「ひし形の面積を求める式を理解している」の平均正答率は85.4%で、市の平均を9.6ポイント上回った。 ●「図に示された四角形の内角の和の求め方を説明している」の平均正答率は、市の平均正答率を12.2ポイント上回ったが、50%だった。	・様々な図形の面積や体積を求める問題や、その図形の性質を利用して答えを導き出す問題に繰り返し取り組むことで、図形への理解を深めていく。 ・展開図を組み立てて立体を作る活動や、パソコンを用いて視覚的に理解を図る活動などを積極的に取り入れる。
変化と関係	○本領域の平均正答率は61.1%で、市の平均正答率を2.4ポイント上回った。 ○「速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直すことができる」の平均正答率は59.4%で、市の平均を5.1ポイント上回った。	・単位量当たりの大きさや速さの単元において、数量の関係について理解が深まるように、言葉や図、式など複数の方法を用いて説明したり、自分の考えをまとめたりする活動を取り入れて指導していく。 ・日常生活から割合について考えられるようにするとともに、継続して学習を繰り返し、定着を図っていく。
データの活用	○本領域の平均正答率は75.9%で、市の正答率を6ポイント上回った。 ○「度数分布表を完成させることができる」の平均正答率は87.5%で、市の平均を10.2ポイント上回った。 ●「平均から全体の量を推測することができる。」の平均正答率は、市の平均正答率を1.6ポイント上回ったが、52.1%だった。	・データの見方の単元について、学級などの身近なデータを取り上げながら学習を進めていく。また、様々な視点で多面的、批判的に考察し、より妥当な判断を下したり、問題点を改善して遂行したりする力を育む。